

# 音楽科学習指導案

令和7年 月 日第 校時

中学校2年 組 名

指導者

1 題材名 リズムアンサンブルをつくろう

## 2 題材の目標

- (1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) 構成を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。
- (3) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組み、リズムアンサンブルに親しむ。

3 教材 「Let's Create!」（教育芸術社 中学生の音楽2・3上）

## 4 題材について

### (1) 生徒の実態

本学年の生徒は、人前で表現することに羞恥心がある生徒や、音楽活動に対して苦手意識が強く、意欲的に取り組めない生徒も非常に多い。一方で、年度当初のアンケートでは、「自分の好きな音楽を聴くことは好き」や「カラオに行き歌うことが好き」と回答していた生徒も多く見られた。

そこで、仲間と共に一つの音楽をつくり上げる喜びや、表現することの楽しさを味わってほしいという願いから、9月頭に開催される文化祭の学年の出し物でボディーパーカッションを演奏することとなった。

本題材では、文化祭での経験を経て、さらに自らがアンサンブルを創作することで、自信をもって表現することの楽しさを味わい、今後の様々な音楽活動に主体的・協働的に取り組むことへつなげたい。

### (2) 教材について

本教材は、ボディーパーカッションという生徒がすぐに鳴らすことのできる音素材

を使用するため、特徴を感じ取りやすく、創作活動に主体的に取り組みやすいのではないかと考えた。リズムパターンを選択できることから、反復、変化、対照などの意味とその効果についての理解もしやすい。

(3) 指導に当たって

教科書に掲載されている二次元コードから創作ツールをダウンロードできるため、記譜が苦手な生徒もタブレット端末を使用することで少しでも意欲的に創作活動に取り組めるよう指導したい。また、アンサンブルで表現したいイメージや創意工夫に関しては、音楽の特徴やよさ、気付いたことなどを問いかけ、ペアやグループでの話し合いが活発になるよう支援する。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 A表現 (3)創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を工夫すること。

イ 次の(ア)および(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

[共通事項] (1)



(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「構成」)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>㊦ 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>㊧ 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。</p>	<p>㊦ 構成を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>㊦ 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

7 指導と評価の計画（本時 2 / 3 時間）

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価（◆評価方法）		
		知・技	思	態
1	◎音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心を持ち、それらの特徴について表したいイメージと関わらせて理解する。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●創作する際の音素材となる手拍子と足踏みの特徴を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手拍子、足踏みをしながら、それぞれの奏法による音色から感じ取ったことを話し合い、それぞれの音色の特徴を学級で共有する。</li> </ul> </li> <li>●音の重なり方や構成上の特徴について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアになり、音の重なり方が違う3種類のリズムを手拍子で打つ。</li> </ul> </li> <li>●音の重なり方の違いから生まれる効果や感じ取った特徴から、つくりたいリズムアンサンブルのイメージを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3種類の音の重なり方から感じ取った特徴や、どんなときに使えそうかを教科書に記入する。</li> <li>・ペアで、つくりたいリズムアンサンブルのイメージを考え、MetaMoji Classroomのワークシートに記入する。</li> </ul> </li> </ul>	知 ◆観察 ◆ワークシート	↓	↓
2 (本時)	◎まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図を持ち、リズムアンサンブルをつくる。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●創作に使用するリズムパターンを習得する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体でリズムパターンの練習する。</li> </ul> </li> <li>●創作の課題と条件を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムアンサンブルの例を見て、音の出し方や重ね方、反復、変化、対照などの構成を知る。</li> <li>・創作の条件を確認する。</li> </ul> </li> <li>●音素材や音の重なり方の特徴を生かして創意工夫し、リズムアンサンブルをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末で創作ツールを使用し、6つのリズムパターンからイメージに合うリズムを選択して小節を埋める。</li> </ul> </li> </ul>		思 ◆ワークシート ◆観察	↓

<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作ツールで出来上がったもののスクリーンショットを撮り、ワークシートに貼り付ける。さらに手拍子か足踏みの音素材を加えて、表したいイメージに近づくよう工夫する。</li> </ul>			
<p>◎創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、リズムアンサンブルを楽しむ。</p>			
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●前時で作ったリズムアンサンブルをどのように表すかについて思いや意図をもつ。</li> <li>・グループで演奏し合い、意見交換をする。</li> <li>・互いに助言しながら、さらに表現を工夫しリズムアンサンブルを見直して完成させる。</li> <li>・表したいイメージとつくった音楽の関連について工夫した点をワークシートに記入する。</li> <li>●完成したリズムアンサンブルを楽しむ。</li> <li>・グループで1つの作品を選び、練習する。</li> <li>・全体で発表する。</li> <li>・これまでの学習を振り返り、自分の考えの深まりや変容など感じたことを記入する。</li> <li>・記入したことを発表し、全体で共有する。</li> </ul>	<p>技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆観察</li> <li>◆ワークシート</li> </ul>		<p>態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆観察</li> <li>◆ワークシート</li> </ul>

## 8 本時の学習

### (1) 目 標

まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもち、リズムアンサンブルをつくる。

### (2) 展 開 (2/3時間)

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。</p>	<p>○MetaMojji Classroom のワークシートを開き、前時に考えたイメージを確認する。</p>	
<p>イメージに合ったリズムアンサンブルをつくろう</p>		
<p>2 創作で使用するリズムパターンを練習する。</p>	<p>○実際に手拍子で音を出してリズムを確かめ、正確に捉えられるよう助言する。</p>	

<p>3 創作の課題と条件を理解する。</p>	<p>○リズムアンサンブルの例を提示し、音の出し方や重ね方、反復、変化、対照などの構成について説明する。</p> <p>○創作の課題と条件を確認する。</p>	
<p>4 創作ツールを使用しリズムアンサンブルをつくる。</p> <p>5 つくったりリズムアンサンブルのスクリーンショットを撮り、ワークシートに貼り付け、音素材を記入し、提出する。</p>	<p>○タブレット端末で教科書の二次元コードを読み取らせ、創作ツールの使い方を説明する。</p> <p>○イメージに合うリズムパターンや音素材を選択するよう助言する。</p>	<p>◇構成を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p> <p>◆観察・ワークシート</p>

### (3) 評価及び指導 (手だて)

#### 〈思考・判断・表現〉

<p>A (十分満足できる) と判断される具体的な状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「音楽をつくる際の課題や条件」に沿って2つの音素材の特徴を生かし、音の重なり方を工夫した2声のリズムアンサンブルをつくっている。</li> <li>・「表したいイメージ」を創作で表すために、音素材や音の重なり方を多様に使用している。</li> </ul>
<p>B (おおむね満足できる) 状況を実現するための具体的な指導 (手だて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に演奏しながら、奏法と音の重なり方を一緒に確認する。</li> <li>・表したいイメージと関連付けられるような音の組み合わせ方を例示し、リズムパターンと音素材を選択させる。</li> </ul>